

テーパリングクラウドという名称について

2013年5月号の「今月のひまわり画像」の欄に、木下(2013)による「2013年3月先島諸島付近で長時間維持されたテーパリングクラウド」という記事が掲載されていた。記事の内容は興味深いものであったが、テーパリングクラウドという名称にひっかかった。この言葉は我が国ではよく使用されているものであるが、使用しない方がいいのではないかというのが私のコメントの趣旨である。

そもそも taper という動詞は、手元のウェブスター辞書によると, to decrease gradually in width or thickness である。衛星赤外雲画像で見れば、確かに風上に向かって幅が狭くなっている雲帶である。だから tapering cloud を訳せば先細りの雲となるだろう。しかし実情は、今回の記事に正しく書いてあるように、下層の顯著な収束帶のある場所で対流セルが継続的に発生し、セルが風下に流されている間に積乱雲に発達し、雲帶の幅が増大していくというプロセスが長時間繰り返されて出来た雲帶である。先細りでなくて、末広がりの雲である。つまり、バックビルディングのメソ対流系に他ならない。

テーパリングクラウドという言葉は最近の欧米の文献では、私の知る限り、使われていない。アメリカ気象学会の気象用語辞典である Glickman (2000) や Geer (1996), さらに WMO (1992) の用語辞典、吉崎・加藤 (2007) や Markowski and Richardson (2010) の参考書のインデックスにも載っていない。よく知られているように、西地中海あるいはフランスやスペインの地中海沿岸地方は、洪水を起こすような集中豪雨にしばしば襲われる。竜巻も発生する。こうした豪雨を起こすメソ対流系についての論文は沢山あるが、Nuissier *et al.* (2008) の論文では、a characteristic V-shape の対流系という表現を使い、それらがバックビルディングによる雲と明記している。

わが国でいつからテーパリングクラウドという名称を使い始めたか分からぬが、1970年代後半から1980年代にかけては、しきりに Anderson *et al.* (1969) が引用されている。初代の「ひまわり」が打ち上げられ、

気象庁に気象衛星センターが設立され、雲画像の解析を始めた際に、当然先輩格である米国のガイドブックやマニュアルを参考にした。その頃はバックビルディングという概念は無かったから、その雲帶の成因も分からぬままに、単に形状からテーパリングクラウドと呼んだ。そして、それがガラパゴスのように、わが国では今日まで生き残ったということであろうか。

要するに、にんじん状 (carrot-shaped) 雲、筆の穂先雲、V字型雲、バックビルディング雲、どれでもよいが、テーパリングクラウドだけは使用しない方がいいのではないかという提案である。会員からのご意見をお聴きしたい。

参考文献

- Anderson, R. K., J. P. Ashman, F. Bittner, G. R. Farr, E. W. Ferguson, V. J. Oliver and A. H. Smith., 1969: Application of Meteorological Satellite Data in Analysis and Forecasting. ESSA Tech. Rep., 51 (Washington, D. C., Air Weather Service), Supplements, 1971, 1973 (日本語訳: 気象庁気象衛星課, 1976: 予報と解析への気象衛星資料の利用. 気象庁).
- Geer, I. W., ed., 1996: Glossary of Weather and Climate. Amer. Meteor. Soc., 269pp.
- Glickman, T. S., managing ed., 2000: Glossary of Meteorology, 2nd edition. Amer. Meteor. Soc., 855pp.
- 木下 仁, 2013: 2013年3月先島諸島付近で長時間維持されたテーパリングクラウド. 天気, 60, 392.
- Markowski, P. and Y. Richardson, 2010: Mesoscale Meteorology in Midlatitudes. John Wiley & Sons, Ltd., 407pp.
- Nuissier, O., V. Ducrocq, D. Ricard, C. Lebeaupin and S. Anquetin, 2008: A numerical study of three catastrophic precipitating events over southern France. I: Numerical framework and synoptic ingredients. Quart. J. Roy. Meteor. Soc., 134, 111-130.
- WMO, 1992: International Meteorological Vocabulary. WMO/OMM/BMO, No.182, 784pp.
- 吉崎正憲, 加藤輝之, 2007: 豪雨・豪雪の気象学. 朝倉書店, 187pp.

(小倉義光) yoshi608gaien@nifty.com